

2018年5月9日(水) 開催

鎌倉街道上道 第8区間のお知らせ

区間世話人：田中 浩史

池戸誠二郎

今回は、東武生越線の西大家駅から東武線武蔵嵐山駅まで、約15kmの街道を歩きます。標高が40mから笛吹峠の80mを最高点としてほぼ平坦な道です。車道を歩く部分もありますが、比企丘陵の田舎道を、秩父の外山を西に見ながら楽しく歩けるとおもいます。

記

1. 実施日：2018年5月9日(水)
2. 集合場所と時間：東武生越線「西大家駅」改札口 8.50 集合 9.00 出発
3. 参加費：1,000円(昼食時に集金)
4. 昼食は3択です。A:レバニラ定食、B:回鍋肉(ホイコーロウ)定食、C:酢豚定食 いずれも800円。
交通便は、大船発6.30宇都宮行新宿ラインが便利だと思います。(7番線ホーム、10両編成、入線6.20、出発時には満員になりますので、少し早めに来て並ぶことをお勧めします。乗換えは2回、池袋駅で東上線に乗換え、坂戸で生越線に乗換えます。)
5. 概要：歴史と地理

〈歴史〉スタート地点の東武生越線の「大家駅」の駅名は旧入間郡大家村に由来する。

この村名の由来は、この地が『和名抄』において「大家郷」のあった所だという伝承による。

入間郡は7世紀頃に武蔵国の郡として成立。交通路としては古代の官道である東山道武蔵路の枝道「入間路」のほか、入間川およびその支流の水運も利用していたようである。万葉集巻14に「入間道の大家が原のいはみづら……」と歌われる「入間道」こそ武蔵国と上野国の国府を結ぶ官道で、中世以降は鎌倉街道上道として重要な役割を果し、畠山重忠・新田義貞らの武将もこの道を鎌倉へ上った。

〈地理〉今回のコースは、入間郡の毛呂山町・比企郡の鳩山町・嵐山町・ときがわ町・生越町に広がる「岩殿丘陵」のほぼ中央を通る。県立比企丘陵自然公園の大部分を占めることから「比企丘陵」と呼ぶこともある。今回通過する町は、入間郡毛呂山町・比企郡鳩山町・比企郡嵐山町の3つの町です。

区域はおおむね南は越辺川(ワッパガリ)、北は都幾川(トキガリ)、東は関越道、西はJR八高線に囲まれた範囲が該当する。東側は高坂台地から荒川低地へとつづく。西側は八王子構造線を越えた西側の外秩父と呼ばれる500m級の山並みへと続いている。なお関東平野から外秩父山地に続く途中の緩やかな台地となっているため、東の荒川低地から見ると外秩父の聳え立つ山々の手前にある丘のように見えるのが特徴である。コースの標高はだいたい40mから60mの範囲で、80mの笛吹峠が唯一の高所です。

岩殿丘陵の最高地点は東端の物見山(標高135m)で、笛吹峠(標高80m)にかけて尾根を形成する。また物見山周辺は九十九峰四十八谷といわれるほど起伏に富んでいる。この地勢は、笛吹峠の登り口である奥田地区を歩く時によく分かります。また南から順に高麗川(コマガリ)・越辺川・都幾川が西から東に流れており、今回はこれらの川を南から北に順に越えてゆきます。高麗川と都幾川いずれも越辺川に入り、越辺川は入間川に合流し最後は荒川に注いでいます。

この豊かで住みやすい土地柄のため、古代から開発されて数多くの豪族が早くに誕生してそれらの古墳が残っています。その古墳群の一つの近くを通りますが、残念ながら時間がなく立寄りません。

第8回鎌倉街道：西大家駅→武蔵嵐山駅 スケジュール表 2018.5.9 催行

地番	地点	区間距離	累計距離	到着時	出発時	休憩○ 食事◎	立寄△ トイレ▲	備考1	備考2
1	西大家駅 (標高47m)	0.0		8.50	9.00		▲	しばらくトイレないので車で済ます	近くの空き地で体操
2	国渭地祇神社(右)						▲	小さいが延喜式内社	八幡神社もある。♂2、♀1
3	森戸橋(高麗川)							橋は狭いので自動車に注意	右側歩道の境線内を1列縦隊
4	市場神社(左)	1.5	1.5	9.30			△		
5	県道を右折100m 毛呂山町歴史民俗資料館	1.5	3.0	10.00 10.30	10.30	30分	△ ▲	☎049-295-8282	無料で充実している立派な資料館 学芸員による説明あり
6	延慶の板碑4m大					5分	△	延慶3年(1310)の板碑の案内あり、そこを左折する。大きい立派な板碑。	
7	無名の橋(越辺川)								
8	今川橋							橋を越えた先の苦林古戦場橋は見ると影もない	
9	昼食：県道に合流右手の 中華料理店「鮮味園」(50m)	2.3	5.3	11.15	12.15	◎ 60分	▲△	メニューはABCの3択、A:レバニラ定食 B:回鍋肉定食 C:酢豚定食 生ビール380円(個人負担) トイレ:♂1♀1 ☎049-296-2226	
10	おしゃもじ山 (63m)					15分			
11	赤沼入口斜め右旧道に入る							県道171号をそれる	すぐ先に電波塔が見える
12	鳩山町文化会館	1.7	7.0	13.00	13.05	5分	▲	5月9日(水)使用Ok	♂6、♀4
12-1	須江奥田地区土地改良記念碑								
13	笛吹峠 (標高80m)	3.4	10.4	14.10	14.20	10分	▲	新田と足利との最後の決戦武蔵蔵野決戦で敗れてここまで逃れた。その時新田軍の宗良親王が笛を吹いたという。90m下る。	
14	將軍神社と日吉神社							伝承：坂上田村麻呂征夷大將軍に由来。立寄らず	
14-1	縁切り橋								
15	源義賢の墓(民家の庭にある)					5分	△	交差点の右50m先の民家の中凝灰岩の五輪塔	
16	大蔵交差点	2.1	12.5	15.20				大蔵交差点15.20は時間厳守	
17	大蔵神社(源義賢の大蔵館跡)					15分	△	大蔵神社(交差点左へ500m)	木曾義仲の生誕地
18	学校橋(都幾川) (40m)						▲	標高40m ↑	槻川と都幾川の合流点
19	県立嵐山史跡の博物館	1.8	14.3	15.55	16.25	15分	△▲	4.00までに入館、4.30まで開館	☎0493-62-5896、団体割引60円
20	菅谷館跡					15分		畠山重忠の館と言われる。現在の空堀のある大きな城は戦国時代のもの。	
21	武蔵嵐山駅 (65m)	0.8	15.1	16.40				駅前には比企郡嵐山町菅谷	

タクシー 毛呂山町：飛鳥交通(048-650-5477) 鳩山町：三芳野タクシー(049-283-3440) 坂戸タクシー(049-281-0023)
嵐山町：観光タクシー(012-007-9989)

鎌倉街道上道第 8 回コースの見所などの案内 (簡略版)

頭の番号はスケジュール表の地番

2. 国渭地祇神社

高麗川の南岸に位置する当社は、この村の鎮守として鎮座し、社前の道が旧鎌倉街道であると伝える。社名は「クニイチギ」と読み、国で一番すばらしい社であるという国一熊野大権現意が転化したものという。社記には、延歴年中、坂上田村麻呂が東征の帰途、奉養のため社殿を再営し、下って奥州藤原秀衛が再建したと伝える。

3. 高麗川・森戸橋

荒川水系の一級河川で越辺川の支流。飯能市、日高市、毛呂山町を流れ、支流を合わせて坂戸氏で越辺川に合流。嘗て高句麗からの亡命者を受け入れた狛軍（現在の日高市周辺）を流れることからこの名がある。

4. 市場神社

街道の西側にあり、大正年(1915)に三島神社から市場神社に改称している

4-1 鎌倉街道掘割遺構

南北 120m、4mの道幅とその両端に約 1.5mの土手のある「掘割」の形状を良好に残している。近年の掘割遺構の調査の結果、地下 30 c m 下に幅 1m、深さ 20~50 c m の側溝が道の両側から発見された。鎌倉街道の本来の姿が分かった。

6. 延慶の板碑 延慶 3 年(1310)の板碑で高さが 3m の立派な板碑。

12-1、「須江奥田地区土地改良記念碑」

笛吹峠の登り口の辺りはかつて交通の要衝にあたり、国分寺瓦、須恵器の産地として栄えた(須江奥田の須江は須恵器に通じる)。しかし山に囲まれて水はけのよくない湿田が多く、ひとたび代雨に遭うと冠水して農業に被害をもたらした。そこで昭和 60 年に奥田地区土地改良組合を設立し、土地改良総合整備事業を実施した。

13. 笛吹峠

鳩山町と嵐山町の境にある峠。標高 80m。岩殿丘陵の中央に位置し、峠を起点として板東 10 番の岩殿観音から同 9 番の慈光寺観音へ続く東西の道が通っており、巡礼街道と呼ばれている。この峠を南北に貫く道が鎌倉街道上道で、鎌倉時代には数多くの武士団等が行き来した所であった。新田義貞の没後、新田義貞の三男義宗が正平 7 年 (1352) 閏 2 月、宗良親王を奉じて武蔵野の小手先ヶ原古戦場で戦ったが、最終的に結末がついたのがこの峠であった。新田義宗は越後に落ち延び、足利尊氏は関東を制圧した。この峠の名称は、敗退の陣営で折からの月明かりに宗良親王が笛を吹かれたことから命名されたという伝承がある。

14 将軍神社と日吉神社

将軍沢の地名は、村内字大宮に坂上田村麻呂（一説には藤原利仁）を祀る大宮権現社があることに由来するといわれる。当社は神仏分離により「将軍神社」と改称し明治 7 年日吉神社の境内に移された。

将軍神社の創建年代は不明だが、江戸時代には山王社と呼ばれ明光寺の持ちであった。明光寺は寺伝によれば延暦 10 年 (910) 坂上田村麻呂が東征の際、当地に一堂を建立したことに始まる。明光寺が天台宗の寺院であることを考えると、当社はその寺の鎮守として創建された可能性もある。

17 大蔵館跡 (大蔵神社) 県指定史跡

仁平 3 年 (1153) に木曾義仲の父・源義賢が秩父重隆の娘をめとり、移り住んだ館跡とされます。義賢は、源氏の棟梁、源為義の次男として生まれ、近衛天皇が皇太子のときに東宮警護の長官である帯刀先生を務めた。しかし、部下の不始末で職を追われ、武蔵 (埼玉県) へ下った。秩父氏と結び義賢の勢力増大を恐れた兄義朝は、息子の義平に義賢を襲わせ「大蔵合戦」で討ち取った。このとき駒王丸 (後の木曾義仲) は木曾の地へと逃れた。

20 菅谷館跡（すがややかたあと）国指定史跡

武蔵国男衾郡（現在の埼玉県比企郡嵐山町）にあった中世の日本の城で、国の史跡に指定されている。また 2017 年には「続日本 100 名城」（120 番）に選定された。畠山重忠の館といわれるが、現在の空堀のある大きな城は、戦国時代のもの。館跡は都幾川と槻川の合流点北側の低台地にある平城で、館跡中央のやや南寄りに平面長方形の本郭があり、その北側に後世の二の郭、三の郭などを配置している。土塁の遺存状況は良好であり、本郭は単郭式の鎌倉時代の城館の面影をよくとどめている、中世の館跡の遺構例としては稀少な遺跡である。

畠山重忠は、奥州征伐の出陣や京都上洛の折には先陣のトップを務めるなど、頼朝にはよく用いられたが、北条執権の時代になって畠山の勢力を恐れた北条時政の謀略にあつて、二俣川の合戦で 130 騎の一族郎党とともに討ち死にした。享年 42。